

コロサイ人への手紙2章13-15節 「十字架の圧倒的な力」

1A 生かす力 13

1B 死んでいた者

2B キリストの復活

2A 赦しの力 14

1B 債務証書の無効

2B 十字架による釘付け

3A 征服の力 15

1B 支配と権威の武装解除

2B 凱旋の行列の捕虜

本文

コロサイ人への手紙 2 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びはコリント 1 章まで来ましたが、今日の午後に、2 章の前半部分を学びます。今朝は、その中で 2 章 13-15 節に注目します。「¹³ 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、¹⁴ 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。¹⁵ そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」

私たちがコロサイ人への手紙を見ていって、私はとても励まされ、喜んでいます。それは何かというと、コロサイの人々が直面している課題は、私たちの課題でもあるからです。コロサイは、自分たちの不安を解消するために、いろんな哲学、スピリチュアル、天使礼拝もやっていたし、規則に縛られてもいました。今現代の社会、私たちが生きているのも、同じです。漠然とした不安が心にあります。恐れがあります。その心を満たすために、あらゆることを提供しています。そして、ややもすると、キリスト者でさえが、キリストだけでは不足であるがごとく、そうしたものにすがったり、はまったりするのです。

そのために、パウロは、キリストがいかにもすぐれたお方なのかを語り始めました。万物を造られた初めにおられた方です。そして、復活において第一の方になられました。この方がよみがえられ、そしてこの方を信じる者たちもよみがえり、そして天地そのものが新しくされます。ですから、この方であれば、すべてを得ているのです。そして教会は、このキリストが私たちの中に住んでおられるという奥義の中にあります。

ですから、なぜ他のものにつながろうとするのか？という問いかけを、パウロは 2 章から始めているわけです。そこで、私たちが読んだところですが、ここでパウロが伝えたいことは、「あなたがたが信じているキリストの十字架が、いかに力強いものであるかを知りなさい。」ということです。10 節に、「キリストはすべての支配と権威のかしらです。」とあります。これらの支配や権威とは、霊的な勢力です。神に仕える御使いもそうですが、悪いほうの霊的な勢力、つまり悪魔や悪霊どもも含まれます。そして、パウロがここで話しているのは、これら悪の勢力に対して十字架が圧倒的な力を持っていることを教えています。ですから、私たちはキリストがあたかも力がないかのように、他のところに行って、自分を変えてもらおうとしていることは空しいことなのです。

1A 生かす力 13

13a 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。

1B 死んでいた者

私たちが、まず知らなければいけないのは、私たちが背きの中で死んでいた者だということです。コロサイの教会に入って来た異端の一つは、「味わうな、さわらな」というような規則によって縛るものでした。そのような規則によって自分を変えようとする時に、完全に間違っている前提があります。それは、「改善できる」と思っていることです。人々の間でしばしば聞くことばは、「私はきちんとできていない。」というものです。それは裏返すと、「自分は、これができれば、やれる」という希望があることです。自分をもっと良くなれると思っているのです。そしてキリスト者がもし、その希望をもって規則にしばられたら、それがユダヤ主義と呼ばれる異端の教えに近づいてしまいます。

私たちは何ですか？「**死んだ者**」なのです！死んでいる者は、改善できません。もう、治す薬がないという嘆きの言葉が日本語にあります。死んでいる者に対しては、医者薬を出しません。治そうと思っているのであれば、自分が、罪に対して何とかできると思っているのです。しかし、キリストの十字架は、この方があなたの代わりに死なれたことを意味しており、あなたが罪の中で既に死んでいるということを、はっきりと示しているのです。

そこで、「**肉の割礼がなく**」とあります。これは異邦人で、割礼を受けていない時に、あなたがたは死んでいた、ということです。割礼は、ユダヤ人に対して神が生後八日目に授けなさいという、神の命令です。ユダヤ人ではなかったと言い換えることができます。神の律法がなく、道徳的に無感覚になっていたということです。そのような人に、変えられる希望があるのか？ということです。私たちは、背きと罪の中からはある程度、守られていれば、その人は変えられる望みがあると考えてしまいます。両親に愛されて育った人であれば、イエスを信じたら良くなるかもしれないけれども、親に捨てられて、不良の限りを尽くした者が、どうして信仰だけで変えられるのか？と思うのです。

2B キリストの復活

しかし、パウロは、可能なのだと断言しているのです。「**神はキリストとともに生かしてくださいました。**」と言っています。神は、キリストを死者の中からよみがえらせました。そのよみがえりのキリストに、私たちが結びついているというのが、神の福音です。キリストがよみがえられたように、私たちは心と霊が新たにされ、新しい歩みをして、将来は、新しい体が与えられるのです。その力、復活の力を得るのに必要なのは、ただ信じることです。12 節に、「**バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。**キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。」とあります。信じたので、キリストのよみがえりのいのちを得ています。

人が変えられるのは、劇的な回心の体験をしたからだという人たちがいます。劇的な回心の体験は、素晴らしいことです。けれども、劇的であるかは、あまり関係がありません。イエスが死者の中からよみがえったという福音のことばを聞いて、信じた時に、何か感じたということが全くないということもあるのです。しかし、御霊によって新しく生まれているので、御霊が確実に、その人を動かして行かれます。キリストの十字架、そして復活は、キリストに私たちが結ばれているゆえ、その生きる力を与えてくださるのです。

2A 赦しの力 14

そして次に見るのは、十字架にある赦しの力です。「**14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。**」

私たちにとって、赦されていない罪があるというのは、一種の拷問に近いものであります。罪から来る報酬は死ですから、自分が死んで、そして裁かれるということ、人々は多かれ少なかれ、知っています。パウロはローマ 1 章で、いろいろな悪いことを列挙してから、こう言いました。「1:32 彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。」

聖書では、罪と背きのことを負債のように表現しています。罪を犯せば、相手に対して借金をしているようにみなしています。これは、借金をした人にとっては理解できるのではないのでしょうか？ 債務者に対して自分は奴隷のようにつながれているのです。イエス様ご自身が、罪が赦されていない状態を借金に喩えておられます。主人に対して一万タラントの負債のある人について話しておられます。(マタイ 18:24)。一タラントは、六千日分の労賃と同じです。16 年働いても足りないような金額です。一タラントではなく、一万タラントと言っていますから、一生働いても、到底、支払いきれない金額なのです。ヘブル書には、「**死の恐怖にとって、一生涯奴隷としてつながれていた人々**」と表現しています(2:15)。

コロサイの町の人々が、あらゆる神々にすがること、いろいろな儀式を行おうとすること、天使礼拝などの神秘主義、またギリシア哲学などにはまること、これらのことはすべて、自分を贖いたい、自分を救いたいと思っているからです。けれども、人は罪の負債の中で生きていて、その借りを返そうとしています。けれども、決して払い切れるような代物ではないのです。

1B 債務証書の無効

それを、パウロは、「**私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書**」と表現しています。これは、律法のような規定が与えられたらそれだけ、私たちに不利になることを示しています。パウロは、「律法は正しい人のためにあるのではなく、不法な者や不従順な者、不敬虔な者や罪深い者」などの者たちのために与えられていると言っています。(I テモテ 1:9)自分を正しくすると思っていた律法は、むしろ不利に働くのです。そして、それらが、借金取りが責め立てている中で手にしている債務証書だということです。私はそうした経験はないのですが、おそらく借金取りが家に来て責め立ててくることを経験したことは、このことがどれほど辛いことかをご存じだと思います。しかし、物理的ではない、霊的にはすべての人が経験していることです。

そこで、それを「**無効にし**」たというのが、キリストの十字架の働きなのです！どうですか、自分に巨額の債務証書をご自身がお持ちだとします。その債務を一気に無効にするなど、よほどの力ある人物だと思いませんか。そうです、キリストがまさにそのような方なのです！イエス様は、すべての支配と権威のかしらですから！ちなみに、ここの「無効にする」というギリシア語は、そのニュアンスが、「完全に抹消する」というものです。その証書に書かれていることが、全く見えなくさせられた、という意味です。どうか、自分を責めているあらゆる罪責感にこのことを当てはめてください。

2B 十字架による釘付け

そして、「**それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました**」と言っています。これはまさに、イエス様が十字架に付けられて、その上にある罪状のことです。イエス様は、「ユダヤ人の王」という罪状が、その木の上に釘付けにされました。私たちの罪がすべて、同じところに、イエス様が十字架に付けられた時にくぎ付けにされたのです！ですから、私たちの罪状はもはや存在しないのです。取り除かれたのです！ハレルヤ。

マルティン・ルターは、悪魔に襲われる夢を見ました。悪魔は、ルターの罪のリストを書いた長い巻物を広げ、ルターの前に差し出しました。巻物の終わりに達したルターは、悪魔にこう尋ねました。悪魔は「いいえ」と言い、二巻目の巻物が彼の前に置かれました。ルターはその巻物を最後まで読んで、「これで全部か？」と言いました。悪魔は「いいえ」と言い、三巻目の巻物が顔の前に置かれました。悪魔が最後の罪を読み上げると、ルターは言いました、「これで全部か？」悪魔は、「そうだ、これで全部だ」と言いました。ルターは言います。「何か忘れている。」悪魔は言いました、「なんだ？」ルターが言います。「イエス・キリストの血がすべての罪から私たちを清め、マルティン

ン・ルターは赦されると、それぞれの巻物の上に書くのを忘れています」。¹

3A 征服の力 15

次は、パウロはますます力強く、イエス様の力を宣言します。これまで、死んだ者を生かす力、罪の負債を帳消しにする力を見ました。次は、あらゆる権威や支配を捕虜にして見せ物にする、制服の力です。「¹⁵ **そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。**」

ローマ社会の中で、この光景はありふれたものです。凱旋式という祝典がありました。外国の地を征服した将軍が、ローマに戻ってきた時に行います。将軍はその日は王のような存在であり、神聖なものとされました。将軍の頭の上には、月桂樹の冠があります。かぶせるのではなく、奴隷が頭の上に掲げるという感じです。四頭の白馬が引っ張る戦車に乗ります。

そして、非武装した兵士も行進の中で付いて行きます。その将軍の前には、敵軍の指導者や捕虜が歩いてきます。彼らは鎖につながれていて、その中で処刑されたり、さらし者にされたりします。そして、分捕り物が続きます。武器や金銀、彫像などです。または、象やキリンなど、エキゾチックな宝物も続きます。絵画や模型などもあります。ローマがエルサレムを倒した時に、凱旋式で、メノウすなわち燭台を運んでいる姿が、ローマの凱旋門のところに刻み込まれていますね。そして、将軍本人がやってきて、その周り、また後ろにローマ兵たちがついてきています。そして、雌牛も行列の中に加わっています。なぜかという、この行列の最終地は、ユピテル Jupiter というローマの神の神殿だからです。そこで、ローマ神に対して献げ物をしたのです。

パウロは、ローマに生きている人であればだれもが知っている、この凱旋式を使って、キリストが霊の勢力を征服させて、凱旋している姿を描き出しているのです。

1B 支配と権威の武装解除

キリストについて初めての預言は、アダムが罪を犯したその直後でありました。蛇に対して、主がこのように宣告されたのです。「創 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」これは、サタンとキリストとの間で戦いがあることを示しています。まさに、レスリングさながらの格闘です。蛇は、キリストのかかとを打ちます。つまり、噛みつきます。しかし、キリストは蛇の脳天を打ちます。これは、同時に行われますが、キリストが蛇の頭をかかとで踏みつける時に、蛇がそのかかとを噛む、という姿です。どちらが勝ちますか？もちろんキリストです。かかとを噛まれることで傷を受けますが、しかしそのことによって、蛇の力は無きものとされるのです。

¹ <https://www.sermoncentral.com/sermon-illustrations/61722/martin-luther-had-a-dream-where-he-was-being-by-sermon-central>

サタンや悪しき霊どもは、ユダヤ人指導者たちに、イエス様を憎ませ、この方を捕え、十字架に付けて滅ぼすところまで考えていました。イエス様に殺意を抱いていた彼らに対して、「ヨハ 8:44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。」イエス様は、ゲッセマネの園で血のしたたるような祈りを献げておられました。そこには、激しい霊の戦いが、悪魔との戦いがあったことでしょう。荒野で誘惑を受けられた時と同じように、その祈りの後に、御使いが来て、イエス様に仕えています、カづけています。(ルカ 22:44)そして、イエス様を捕えに来た者たちに対して、こう言われました。「ルカ 22:53 わたしが毎日、宮と一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。」確かに、暗闇の力が彼らを突き動かし、そして主は十字架に付けられたのです。

しかし、十字架に向かうイエス様についての記録を福音書で注意深く読むと、主が敢えてそのように仕向けている部分が見えていきます。彼らが捕まえに来た時に、ペテロが剣をもって戦いましたが、鞆に収めなさいと命じられました。そして、ご自分の意向で十二軍団の御使いを連れてくることもできるとも言われました。でも、聖書の預言が実現しないといけない、父のみこころを行わないといけないということなのです。弟子たちには、「だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分のいのちを捨てるのです。」と言われました(ヨハネ 10:18)。現に、指導者らは過越の祭りの期間を避けたいと意図していたのに、見事に過越の祭りの時になりました。過越の祭りは、その屠られる子羊は、御子ご自身を預言しているからです！

悪魔と、悪霊どもは、自分たちが成功していると思っていたことでしょう。あまりにも、とんとん拍子にキリストを死に追い込むことを喜んでいただいでしょう。しかし、主は、十字架上で「完了した」と言われました。そして、頭を垂れて霊をお渡しになっています。(ヨハネ 19:30)この時点で、悪魔は怯え切ったことでしょう。自分が成功していると思っていたのが、実は自分の滅びの始まりであることに気づいたでしょう。ヘブル人への手紙は、こう書いています。「ヘブル 2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、15 死の恐怖によって生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。」

2B 凱旋の行列の捕虜

キリストを滅ぼせば成功だと思っていたところ、実は、自分の手から大勢の人々が離れていき、解放されたということなのです！そして、主は天に昇られ、父なる神の御前に行かれるにあたって、ご自分の凱旋に、多くの捕虜を引き連れられました。「詩 68:18 あなたは捕虜を引き連れていと高き所に上り人々に頑迷な者どもにさえ贈り物を与えられた。神であられる【主】がそこに住まわれるために。」

これが、キリストがご自身の十字架の上で成し遂げられたこと。そしてよみがえりによって、成し遂げられたことです。今も、悪魔と悪霊どもは、空中にいます。エペソ書にも他のところにも、今も、これら支配と権威が空中にいて、私たちに猛攻撃をしかけます。事実、約七百年前、ルターの夢の中に、悪魔がありとあらゆる、彼の犯した罪を巻き物の書いていったのです。悪魔は、私たちを滅ぼすために虎視眈々と徘徊しているのです。

しかし、みなさん勇気をもってください。キリストの内に歩むのです。キリストに根ざし、この方に建て上げられ、信仰を堅くしてください。キリストがこれらの勢力に、圧倒的な力をもって制圧してくださったのです！悪魔の仕業は惑わしです。陽動作戦、おびきよせ作戦をしかけます。私たちがキリストの内に堅く立っているということ、これこそが私たちが勝利者としているのです！